

10月30日、賈桂芬副会長が日本・徳島県日中友好協会代表団と会見

10月30日、遼寧省対外友好協会の賈桂芬副会長は、来訪した日本・徳島県日中友好協会の葭森健介会長および代表団一行と会見し、友好的な交流を行いました。

会談の中で賈副会長は、遼寧省対外友好協会を代表して代表団の訪問を歓迎するとともに、長年にわたり遼寧省と日本、特に徳島県との友好交流の促進に尽力してきた徳島県日中友好協会に対し、感謝の意を表しました。また、近年同協会が推進してきた中日間の民間友好、実務協力、人文交流、青少年交流などの活動について簡潔に紹介しました。

賈副会長は、1991年に丹東市と徳島市が友好都市関係を締結して以来、両市が経済・貿易、文化、教育などの分野で実りある協力を続けてきたことを振り返りました。今年8月には、両市が共同チームを編成し、北京市で開催された中日友好交流都市卓球親善試合に参加しました。また、最近では徳島市の遠藤彰良市長が代表団を率いて丹東市を訪問し、両市の友好都市締結35周年を記念する意向書に署名するなど、友好関係をさらに強化しています。

賈副会長は、「歴史を銘記し、平和を大切にすることが中日関係の健全かつ安定した発展の基盤である」と強調し、今後も徳島県日中友好協会と協力しながら、友好の伝統を継承し、協力分野の拡大に努めていきたいと述べました。

葭森健介会長は、自身と遼寧省との深い縁について感情を込めて語りました。祖父母が対中侵略戦争中に遼寧省で亡くなったこと、戦後に中国政府が母親の日本帰国を無私の精神で支援してくれたことに触れ、遼寧省の人々に対する深い感謝の念を表しました。さらに、徳島県日中友好協会の設立経緯と活動の重点について紹介し、青少年交流などを通じて日中友好の火種を次世代に継承し、歴史を銘記し平和を尊ぶ心を育むことの重要性を強調しました。

藤原学副会長は、丹東市と徳島市の友好都市関係の歴史を振り返り、これまでの交流成果を紹介するとともに、今後のさらなる実務協力の深化に期待を寄せました。

将来を見据え、双方はグリーン産業、現代農業、健康・高齢者福祉などの経済・貿易分野での連携強化、学校や青少年団体による相互訪問、文化体験、スポーツ交流の促進、丹東市と徳島市の友好関係の深化、そして遼寧省の他都市と徳島県各地域との友好交流ルートの構築を推進することで一致しました。

なお、今年は中国人民抗日戦争および世界反ファシズム戦争勝利 80 周年にあたり、代表団は会見前に瀋陽の「九・一八」歴史博物館を特別に見学しました。今回の会見は、遼寧省と徳島県の相互理解と信頼を一層深めるとともに、今後の民間友好交流に新たな活力をもたらしました。